



今月の言葉・・・2021年8月25日

## 発信の良し悪しは『心』しだい

澁沢栄一氏「論語と算盤」より

7月21日に書いた通り、個別に手渡す方法を改め、今月からはHP上に掲載する事にしました。

今までは、社員の皆さんに読んで頂く為にだけ書き続けてきましたが、これからは不特定多数？

不特定少数？ いずれにしてもどなたが目を通して下さるか、全く解りません。

それでも、このシリーズを残すのは自分自身への挑戦の一つでもあります。

何かを発信するという事はそこに責任が生じます。また先月述べたように勉強を続ける必要があります。自分の経験や知識だけではすぐに枯渇してしまいます。

しかし、いざ読み手が定まらない状況で書き始めると、ブログとの違いをどうするか？という課題に直面します。ブログは2007年5月に始め14年を過ぎましたが、その日に感じた事、体験した事からヒントを得ながら書き記してきました。

『今月の言葉』ではそのタイトルの通り、魅力的な言葉、意味深い言葉、大事にしていきたい言葉に焦点を当てて、その由来や意味をどう活かしたいか？などを書いてみたいと思います。

『古谷、新たな発信への挑戦』・・・昨今、自身の想いを発信するツールが沢山あり、その効果や影響力が話題になっています。個人名が特定されない場合は、ネガティブな言葉が増えやすい分少し怖いと思います。わたしの場合はどこの誰という事が明確な状態で発信するので、『自由に書くのにもほどほどに』というブレーキがかかります。ブレーキが利くのは実は有難い事です。

調子に乗って一言多いと、それが足かせになるという事を色々な場面で学んで来ました。

澁沢栄一氏の『論語と算盤』の中に『口舌は実に禍のおこる門でもあるが、また福祉の生ずる門でもある』と記されています。福祉のくる為には多弁はあえて悪いとは言わないが、禍のおこる所に向かっては言語を慎まないといけない。と諭しています。福祉のくるところとは、誰かの役に立つ為に口利きをする、誰かを紹介する、助言をしてあげるなどの考え、行為だと思います。

一方、相応しくない場所で心無い言葉を口にしたら『大炎上』に繋がると言う事です。

口の利き方、文章の発信も中庸が良い様です。しかし、どの辺が中庸なのかを判断するには人間観察が必要だと思います。そして沢山経験を積む事。失敗も肥やしにすればいいと思います。

その一言は、本当に自分で考えた上で、誰かの役に立つであろう言葉なのか？

表現は泥臭くても、親身な想いを言葉にすればそれは相手を感じてくれるはずです。

言葉を発する。文章を書くと言う事は、何よりも頭の中の整理をするのに役立つという大きなメリットがあります。

無限にある言葉の中から、毎月何を選ぼうか？プレッシャーとワクワク感が同居しています。